

令和6年度学校評価計画書（最終）

廿日市市立七尾中学校

評価計画					自己評価					学校関係者評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
グローバル社会に求められる、基礎的な知識・技能の習得と主体的に学び課題を解決する力及び思考力・判断力・表現力を育成する。	◎課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む生徒を育成する。(市共通項目)	○「シンプル(焦点化)」「シェア(共有化)」「ビジュアル(視覚化)」の視点がある授業づくりを行う。 ○個別最適な学びを実践する重点単元を設ける。	授業で、解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみよう」という生徒の割合、35%以上。(学校アンケート：よく当てはまる)	35% (37.1% R5 最終)	34%	38%	109%	A	「授業が好きだ」という肯定的な回答の割合も80%にのぼり、意欲的に課題に取り組む姿が見られる。	考える力を育てること、コミュニケーション力を育てることは今後の重要な課題と考えています。はっきりとした言葉で伝えあうことを大切に取り組んでいただければ必ず考える力は育ってきます。ぜひ取り組んでください。	教師は、課題提示、学習方法、学習ツール、学習形態、と様々な面で工夫をしながら授業を進めている。しかし、それを全体で共有したり、研修したりする機会が少なく、組織的な授業改善につながっていない。目標達成のために、日々の授業をどのように改善していくか、校内研修や授業観察を通して学び合う必要がある。
	○生徒が自分で考え、判断し、表現できる生徒を育成する。(小中共通)	○教師が学びの伴奏者(ファシリテーター)として機能する。	「理由をつけて考えを説明、表現することができている」と回答した生徒を80%以上にする。(小中共通)	80% (78.80 R5 最終)	72%	77%	96%	B	積極的に話すことができる生徒は、年々減少しているように感じる。ICTの活用力は高い。		
お互いに認め合える集団づくりを進め自己有用感を高めることによって、問題行動の未然防止を図るとともに学ぶ意欲を高める。	○生徒の自己有用感が高まり、お互いのよさを認め合うようになる。(市共通項目)	○縦割り清掃等の生徒会活動、学校行事、学級活動を通して、生徒に活躍の場を提供し、生徒による評価活動を行う。	自分のよさは、まわりの人から認められると回答した生徒の割合を70%以上にする。(市共通項目)	70% (81.0% R5 最終)	81%	84%	120%	A	縦割りの活動に定着し、それぞれの役割で貢献し、自己有用感が高まる生徒が増えた。	生徒の皆さんはそれぞれコミュニケーションをとって、やられていると思いました。 生徒会のみならず、立派だと思いました。七尾の生徒みんなの事を考えているなど感じました。	生徒の、自己有用感を高めるため、引き続き縦割り活動を積極的に活用していく。 引き続き、SSRの運営や情報共有のシステムの構築に工夫改善を行っていく。
	◎不登校生徒を減少させ、SSR等を含めた居場所づくりを行う。(市共通項目)	○教育相談委員会を通して、SSRの運営や不登校生徒の実態について情報共有を行い、個に応じた指導を行う。	不登校生徒の割合を全校生徒8%以下にする。	8% (7.5% R5)	5.6%	7.3%	109%	A	SSRの運営や情報共有のシステムは構築できてきたが、不登校の割合はほぼ横ばい状態だった。		
教職員の子どもと向き合う時間を確保し、教職員が健康でやりがいをもって勤務できる環境をつくる。	◎働き方改革を推進し、長時間勤務を縮減する。(市共通項目)	○月の時間外在校時間45時間を意識し、企画委員会で随時、校務の見直しと点検を行う。	子どもと向き合う時間が確保されると感じる教職員の割合を70%以上にする。(市共通項目)	70% (68.2% R5 最終)	40%	55%	79%	C	・上半期よりは向上したものの目標を下回った。生徒に向き合いたいとの意欲ともとらえられる。	先生方は時間外の問題等、教育現場が大変だと思いますが頑張っていたきたいと思います。	・教員は授業や放課後、部活動の時間帯等で子どもと向き合っている。教員がお互いに成果を引き出したり、課題を共有したりできる職員室づくりを進める。 ・行事の精選や役割分担を見直し引き続き「はたらき方改革」を進める。
			時間外勤務時間が月平均45時間を超える教職員の割合を50%以下にする(市共通項目)	50% (40.0% R5 通年)	62%	59%	118%	A	目標は上回ったが、下半期に行事が多い分、勤務時間に反映されていると考えられる。		

評価規準：目標値に対する達成度 A：100%以上 B：80%以上 C：60%以上 D：60%未満 ※「◎」本年度の重点項目